

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	物質科学国内研修1
	学部・研究科等名	国際共創大学院学位プログラム推進機構 インタラクティブ物質科学・カデットプログラム部門
	担当教職員名・役職	飯島賢二・特任教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	15	
受入企業等数	9	
受入企業等名	新日鐵住金化学(株)、デュポン(株)、オムロン(株)、積水化学(株)、住友化学(株)、(株)日本触媒、(株)カネカ、(株)O、日本電信電話(株)	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受講生はチームの一員として業務に従事、与えられた課題について、チームメンバーや周囲の社員の協力を得ながら、解決策の提案、実験による実証、結果の評価と新たな課題の設定サイクルを自らが回すことで実際の業務を体得する。良い結果に結びついた場合には、特許出願に至る例も有る。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	博士後期課程1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実社会での業務経験をする中で、キャリアプランの形成、職業観の醸成、グループやチームで業務推進に対する気付きから、俯瞰的視点や複眼的思考力を得ることを目的として、プログラムの必修科目として開講しており、博士後期課程1年次に受講することを推奨しているが、受講時期についてはフレキシブルに対応している。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	週報を提出、指導教員、担当教員、メンターが内容を確認、適宜アドバイス

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	受講対象生に90分のオリエンテーションを実施。インターンシップの目的、受講の心得、大学を離れて業務にたづさわの際の諸注意(情報管理、報連相など)を行う。インターン実施企業の選択に際し、学生のキャリアプランを明確にするとともに、対象企業の調査方法や業務の実際をふまえた指導を行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	週報を用いた日々の記録と気付きの整理に加え、インターン開始時に設定した目標の達成度について、自己評価、職場の上司の評価とコメントを受ける。最終報告書の提出を義務化しており、それに基づいた報告会を実施。担当教員に加え、企業の中堅技術者がアドバイザーとして参加、気付きの深堀りや今後の展開について指導を行う。さらに、メンターが年に数回面談を行う中で、インターンで得られた成果の発展状況を確認している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	週報による日々の業務内容や、仕事を進める中での気付き、今後の展開についての管理と、インターン開始時に目標設定を行い、中間時点、終了時に自己評価、職場の上司による評価と気付きのコメントを整理した評価表を運用している。また、年に1回自己能力の評価を行うコミュニケーションシートを運用しており、インターンの成果の展開についても経年で追跡している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	評価表を用いて、インターン開始時にインターン期間を通じて何を学ぶか、期待するポイントを目録化させ、開始時、中間時、終了時に自己評価、上司の評価を行っている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	評価表を用いて、インターン開始時に何を学ぶか、期待するポイントを目録化させ、開始時、中間時、終了時に自己評価、上司の評価を行っている。内容は、担当教員、指導教員、メンター間で共有化され、適宜指導、助言を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間 90日(3ヶ月)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業、もしくは独法研究機関で3ヶ月(90日)間の連続したインターンシップを受講の条件にしている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業出身の特任教授が主要な企業を訪問して意見聴取、それらを反映させたフレームワークを構成しシラバス化。個別には、受講生が企業担当者との面談を通して、専門性のバックグラウンド等を考慮して企業が研修テーマと3ヶ月のスケジュールを作成、担当教員と調整を行う。インターン中は週報や評価表にて進捗を管理している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ	大学等名	大阪大学
	担当部署名	教育・学生支援部 学生・キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	06-6850-6115

先	メールアドレス	gakusei-sien-career@office.osaka-u.ac.jp
---	---------	--